

新型コロナウイルスに関連した感染症に関する WHOによる助言の概要(速報)

資料3

2020年1月23日
(ジュネーブ時間)

経緯

- 2020年1月22-23日に開催された緊急委員会では、新型コロナウイルスに関連した感染症の発生については、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」は、時期尚早であるとの意見が複数の委員から出された。
- 委員からの様々な意見を踏まえ、緊急委員会は助言を発表した。

重要な要素

- ヒト-ヒト感染の発生は確認されたこと
- 一つの医療機関で感染拡大があったこと
- 患者のうち25%が重症であったこと
- 感染源は不明
- ヒト-ヒト感染の程度については未だ不明

助言の内容

(日本を含む)全ての加盟国に対する助言は、以下のとおり。

1. 封じ込めのために、積極的なサーベイランス、早期発見、患者の個室管理、適切な管理、接触者の健康観察等を含む対策を実施し、WHOにデータを共有すること。
2. ヒトへの感染を減らすこと、二次感染及び国際的拡大を防ぐために、関係機関と連携すること等に重点を置くこと。
3. WHOの渡航勧告※に従うこと。

(※ 手洗いの徹底やマスクの着用など一般的な感染症対策を行うこと、海外渡航の制限はしないこと。)